

クレアボー

平成13年12月20日第三種郵便物認可
No.53第14巻 第1号(通巻第53号)2008年1月30日発行(1,4,7,10月30日発行)

creabeaux

美容&エステティックの新しい情報誌

2008 WINTER

No.

53

SPECIAL FEATURE

オーガニック & ナチュラル・ビューティー



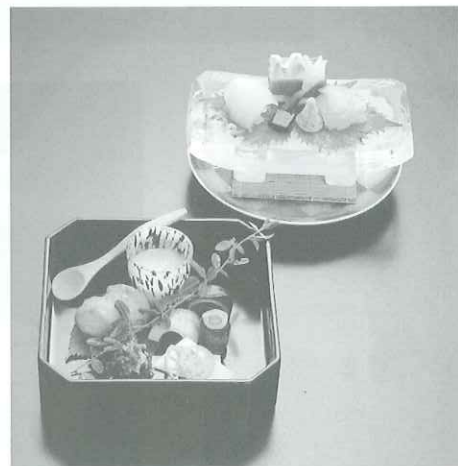
FRAGRANCE JOURNAL LTD.
ISSN 1341-1209



四季折々の美しい自然を見渡すスパのトリートメントルーム。このツインルームともう一部屋用意されている



千坪の敷地に、全く異なる間取りの5室を配置した迎賓館は、「海石榴」の中で最上級の貴賓室。プライバシーは常に完璧に保たれている



「泊まれる料亭」というコンセプトの元に作られるハイクオリティな料理の数々

日本のスパ辞典 第5回

Onsen spa (温泉スパ)

惣流 マリコ

そうりゅう まりこ



エステ・スパジャーナリスト。女性誌の編集経験を経て独立。現在はインターネット総合情報サイト「AllAbout」ほか、テレビや雑誌のエステ・スパ特集の監修や執筆を手がける。またゴッドハンドセラピストと共にエステティックのテクニカルスクール「ゴッドオブビューティ」を設立、技術接客両面における一流セラピスト育成を目指す。



懐石 海石榴／ZEN STYLE SPA ichirin

ブランドのお仕着せ評価よりも
愛情こもった地方の味わい！

やや古い話題となつてしまつたが、昨年のミシュラン東京版が出たときの騒ぎはすごかった。発表当日の報道ラッシュもだが、興味深かつたのはそれより前。ちよつと有名なレストランを訪れる度、ふと誰からともなく沸き起こるミシュランの話題。やれどこそこにフランス人と日本人のカップルが来ていただの、誰それさんのダンナさんがフランス人で審査の協力を頼まれたらしいだの、あのレストランは星がついても1つだの……とみな好き勝手に盛り上がりつていた。

まあ根が飽きっぽい日本人、出たら出たで最近話題にも上らなくなつた。このまま来年の新版が出るまでは瞬間的なブームとして認知されそう。そんなお祭り騒ぎよりも、今の飲食業界には見逃せない潮流がおこりつつある。

「今は、地方の時代、なのよ」

手堅く仕事をし続けているフードジャーナリストの友人に言わせると今、食のキーワードは「地方」なのだそう。東京の流行をありがたがる傾向はなりを潜め、その土地の背景を感じさせる料理やレストランに注目が集まっているという。スローフードを極めるべく食材豊かな地方に出店し話題

を呼んだ店、有名コーディネーターを起用し、郷土の食材や建築材料を見事今風にアレンジした某県の観光協会が運営する人気レストランなど。自分達が大事に培ってきた歴史を見直し、それを提供しようとする姿勢を貫けば貫くほど高い人気を博しているようだ。

分かりやすいブランドが発信するお仕着せの評価よりも、愛情豊かにコッコツと作り上げたもののほうが信頼に足るというところか。この楽しそうな「地方の時代」、その傾向はスパにもあてはまりそう。

「泊まれる料亭」から発信される 極上のスパトリートメント

都内のデイスパ、ホテルスパはもういい加減飽和状態だし、正直ネタも尽きかけてきた。海外のスパは慣れている人には楽しいだろうが、言葉の分らない国へはと出かけて芯からくつることは難しい。

逆に今いちばん元氣なのは地方のスパ。しかも都市ではなく昔ながらの観光地。私のところにも毎月、その土地の名門と呼ばれる老舗旅館がさらなるホスピタリティの充実を求め、素晴らしいスパ施設を作つたという良いニュースが舞い込んでくる。

箱根湯河原の「海石榴（つばき）」も昨年11月、スパ「ZEN STYLE SPA ichirin」をオープンさせた。

「海石榴」は相模の小京都・湯河原の山懐に抱かれた数寄屋造りの老舗旅館。「泊

まれる料亭」と呼ばれるほどクオリティの高い料理を提供することで知られるこの宿は、今年で創業30周年を迎えるそうだ。

宿のもてなしのテーマは茶道の「二期一会」。その機会を生涯にただ一度のものとして心得て、力を尽くすという姿勢は、到着後に供される抹茶と和盆によるお迎えから始まって、優雅な物腰で世話をやいてくれる部屋付の女性、旅の余韻を残すようにゆつたりと見送ってくれる男性にいたるまで隅々にまで行き届いている。年配のスタッフたちのきびきびと働く姿が特に清々しく、見ていて癒やされてしまう。

早速浴衣に着替えて大浴場へ。泉質は万葉の時代から湧き出ているという単純弱塩泉、無色透明だがやや塩気があり全身がよく温まる。伊豆石に縁取られた広いお風呂にたつぷり浸かっていると、じんわりとにじむ汗と共に昨日までのストレスや移動の疲れが体の外に出て行くかのよう。

テラーメイドの時間が生み出す 至福のアンチエイジングタイム

夕方早めに能の演目を模した京指物で飾られた先付からスタートする素晴らしい懐石料理を堪能した後は、いよいよオーブンしたてのスパへ。ボディトリートメントや全身スクラブなど単品メニューも豊富に用意されているが、おすすめるはシグネチャーメニュー「スパエクスペリエンス」。2時間、3時間、6時間と大体の時間を決めて、

セラピストとの話し合いで内容を決めていくテラーメイドのコースである。この日は3時間コースを選択。他のスパでは受けられない椿オイルを使ったシロダーラと、東京でも珍しいカリタのフェイシャルを組み合わせた。

シンギングボール（瞑想鈴）と呼吸法を用いたリラックスタイムの後、背中

のトリートメントから始まる極上のフェイシャル。日本のスパでフランスのブランドコスメはどうなのだろうかと思っていたが、ひまわりの種子を砕いたスクラブ「レノヴァートル」の漢方っぽい香りが意外にもスパの雰囲気にもマッチする。顧客層の中心がやや年配の女性だということから、このエステティックの王道とも言えるブランドを選んだのは正解だろう。

その後は椿オイルを使ったシロダーラ。機材は細い油が垂らされる本格的なもの。第三の目になみなみと太い湯量注がれるインド式と比較してどうなのだろうかドキドキしながら受けたのだが、できたてのスパとは思えないほどスムーズなセラピストのアテンドと、的確な温度管理が織り成すつかの間の脳内トリップを堪能できた。頭皮のむくみもとれ、椿油のヘアケア効果も十二分。フェイシャルの美肌効果も高かった。これなら顧客が漠然と抱えているアンチエイジングの要望にも十分応えてくれるに違いない。

もちろん若い世代にもこの一期一会の門戸は広く開かれており、スパの日帰り利用やスパ懐石、温泉がセットになったプラン



江戸時代の旅人たちが旅籠でそうしたのように、フットバスで足を綺麗に洗いきよめてみる



箱根の山間にひっそりと佇む海石榴の玄関。ここ以外にも実は誰にも会わず通れる隠し玄関が



シロダーラはオイルの当たる額の位置、首の高さなど全てが絶妙のセッティングで



グリーンティと自然塩のボディスクラブ。香りによるリラックス効果と緑茶成分のアンチエイジング効果の両方を期待

懐石 海石榴/ZEN STYLE SPA ichirin

- ・所在地：神奈川県足柄下郡川湯河原町宮上776
- ・スパメニュー：スパエクスペリエンス 2時間¥30,000より
- ・TEL：0465-63-3333
- ・スパ営業時間：14：30～23：00
- ・定休日：なし
- ・ホームページ：<http://www.tubaki.net>



トリートメントのリラックス効果を高める塗香とホームメイドの甘いジンジャーティ

スパ基本用語

【温泉スパ】

も用意されているという。日本を代表する名旅館としてあり続けた海石榴が、よりヘルスコンシャスな温泉スパとしても台頭してくる日もそうは遠くないようだ。

健康の維持・回復・増進を明確な目的として利用客に対して計画的な入浴プログラムや健康食を提供している温泉宿のこと。入浴を楽しむことだけを目的とした温泉は、健康の維持・回復・増進を目的としている現代スパとイコールではなく、むしろスパの起源である湯治場としての古典的なスパに多くの共通点がある（日本スパ振興協会 スパベーシックブックより抜粋）